

IPtalkマニュアル #007

「表示・入力」ページ

2014年12月31日版

これは、IPtalk9t マニュアルの暫定公開版です。

下の NCK 会員向け前書きに書いたように、動作確認の手間を NCK の会員にお願いして、IPtalk9t のマニュアルを作成しようと思ったのですが、栗田が書くこと自体に時間を取ることができず「IPtalk9t の全機能」どころか「よく使う機能」の説明でさえ「いつになるか分からない」という状況が続いています。そこで、「機能限定でも役に立つ」という暖かい意見も頂戴していることもあり、書いたマニュアルは、できるだけ暫定でも一般公開したいと考えます。何時の事になるか分かりませんが、最終的には、1 つのマニュアルにまとめたいと考えています。

【使用の制限】

- ・このマニュアルは、個人的な使用に限定します。
- ・このマニュアルの PDF データや印刷物を個人的にサークル、学校、知り合いなどにコピーして渡すの自由です。ただし、再配布は、必ずオリジナルのまま行い、一部のみの配布、修正などは行わないでください。
- ・ホームページなどに掲載して不特定多数に配布することは禁止します。
- ・このマニュアルを講習会で使用する、本やテキストなどに引用するなど、個人的使用を越えた使用を希望する場合は連絡してください。

【お願い】

今後のために「IPtalk のマニュアルをどのような方が使っているか？」を知りたいので、このマニュアルを手に入れた方は「①名前②所属、又は、県名③入手した方法」をメールしていただくとありがたいです。

【連絡先】 office@nck.or.jp

2014年12月31日 栗田

以下は、2014年9月「NCK 会員向けマニュアル」の前書き

このマニュアルは、NCK 会員の会員専用です。NCK 会員が、サークル、学校、知り合いなどにコピーして渡すの自由です。ただし、もらった非会員が、さらにコピーすることはできません。ホームページなどに掲載することもご遠慮ください。

みなさんもお存じのように、マニュアルを書くのは、膨大な労力がかかります。パソコン環境が、XP か Vista か Windows7 であるかとか、ファイアウォールとか、どんなソフトがインストールされているかなど、IPtalk の動作に影響があるいろいろなことを考慮する必要があります。また、IPtalk の各機能は、表示設定によって動作が異なる場合があるため、その人が「いつも使っている表示設定」での操作が分かるように記述する必要があります。現在、500 項目くらいの表示設定があるため、この組み合わせは気が遠くなります。

そもそも、IPtalk は、10 年以上も、その時々で機能追加を繰り返して来たので、プログラム自体が、まるで建て増しを繰り返した老舗温泉旅館の廊下のような迷路になっていて、マニュアルを正確に書くために、プログラムを当たったり、例外的な動作を調べたりするだけで膨大な労力がかかってしまいます。また、マニュアルというからには、IPtalk の機能を一通りは網羅したいと思うのですが、IPtalk は現在、ウィンドウを 37 個持っていて、実際は、1つのプログラムというよりも、37 個のプログラムの集合体と言った方が良いかもしれない状況も問題です。プログラム行数は、IPtalk9t61 の時に 139,383 行という気の遠くなる行数でした。

それに、せっかく書くのであれば、初心者の人だけではなく、パソコンに詳しい、長年 IPtalk を利用して来た人にも「へえ～、そうだったんだ～」と言って欲しいという気持ちもあって、ますますハードルを高くしてしまい、この数年、マニュアルを作成する必要性は感じていながら、IPtalk のマニュアルは、IPtalk9i,9s シリーズを最後に手が付きませんでした。

しかし、IPtalk9t シリーズが 2007 年にできて、長い時間が経ってしまいました。そこで、発想を変えて、一つの機能限定のマニュアルを栗田の記憶と簡単な動作確認で作成し、NCK 会員に限定配布し、例外的な動作や気づかなかった項目は、会員のみさんから教えてもらうことで、完成度を上げる方法でマニュアルを作りたいと考えました。将来的には、これらのマニュアルを集めて、NCK から一般公開できると良いと思っています。みなさんのご協力をお願い致します。

さて、今回は、「表示・入力」ページです。

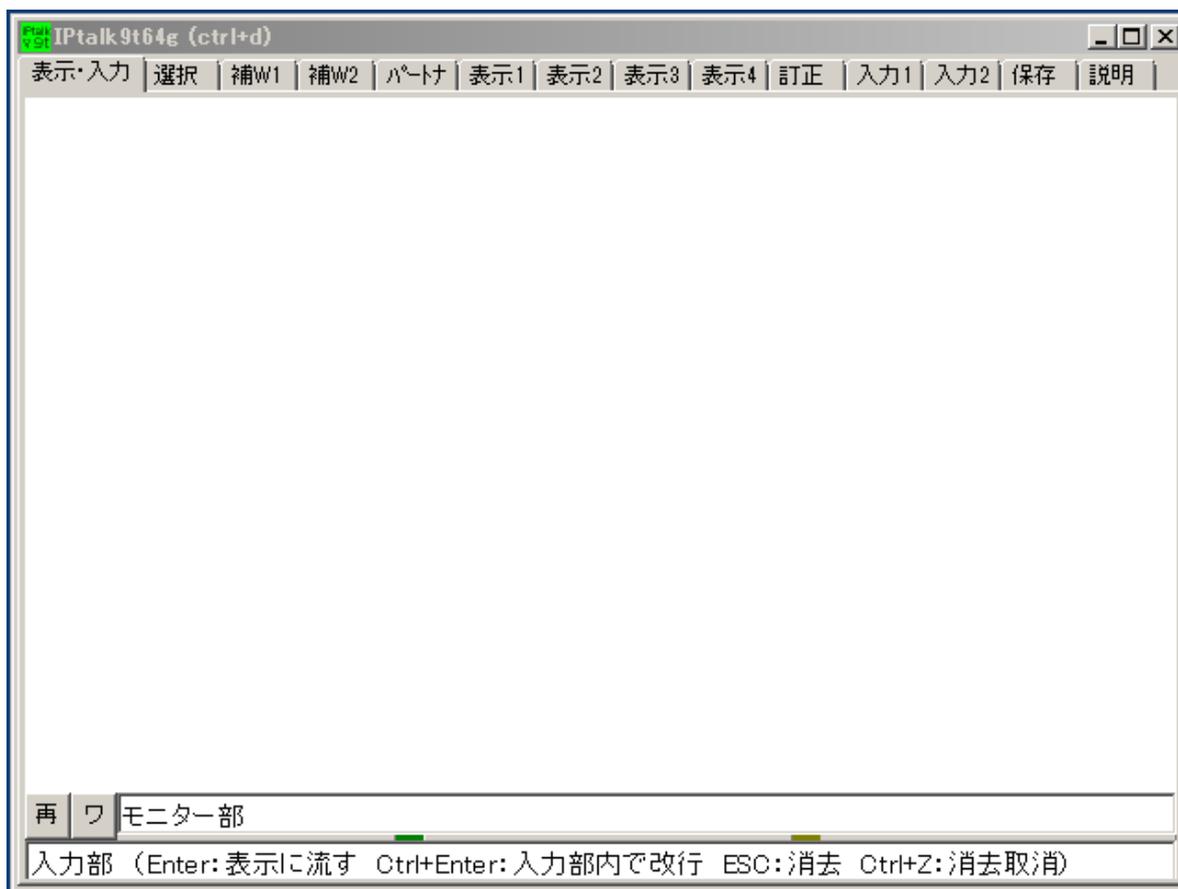
2014 年 9 月 栗田

【履歴】

2014 年 9 月 5 日 NCK 会員向け初版

2014 年 12 月 31 日 暫定一般公開

【概要】



IPtalk を起動すると「メイン」ウィンドの「表示・入力」ページが開きます。

「メイン」ウィンドは、上部の大きな「表示部」と、下の「再」「ワ」ボタン、「モニター部」「入力部」から構成されています。

「表示部」は、スムーズスクロールする「スクムース画面」と1行ずつスクロールする「ワープロ画面」に切り替えることができます。

「モニター部」には、パートナーの入力経過が表示されます。

「入力部」に入力した文が、表示部に表示され、ネットワークで接続した入力班の他の IPtalk にも表示されます。

「表示部」の動作の多くは、「表示1」ページから「表示4」ページで、「入力部」の動作の多くは「訂正」ページ、「入力1」「入力2」ページで指定します。

「入力部」は、「表示1」ページの「入力人数は?」枠の「2人入力」「1人入力」ラジオボタンを入れた時に表示します。「モニター部」は、「2人入力」ラジオボタンを入れた時に表示します。

「表示・入力」ページは、「入力部」の上に「モニター部」、さらにその上に「表示部」を配置してあります。これは、入力を基本に考えた配置で、IPtalk の一番初期、1999年の頃から変わっていません。

つまり、IPtalk は、「モニター部」を見ながら連係入力するソフトで、この点は、今でも変わっていません。(進歩がないとも言えるかもしれません。)

「表示部」は、入力者にとっては、パートナーと交互に入力した文が、1つの文章としてつながっているかを確認するためにあります。普通、このような機能を実現するためには、表示用パソコンから表示した文章を受信して表示する(表示文のエコーバック)のがふつうです。しかし、IPtalk は、自分が入力した文は、直接、自分の表示部に表示し、パートナーが入力した文はパートナーから受信した文を表示しています。つまり、「表示部」の文章は、表示用パソコンの表示とは無関係に表示しています。

このような方法を取った理由は、トラブルが起きた時にすべての IPtalk が表示パソコンの代役をすることがで

きる、つまり、入力用ソフトと表示用ソフトを共用できるようにしたかったからでした。

1999年の頃、パソコンやネットワークの信頼性は、今とは比較にならないくらいに低く、入力中に突然、パソコンがフリーズしてしまうことも珍しくありませんでした。そのような時、もし表示パソコンがフリーズしてしまっても、入力用パソコンを表示に接続して文字通訳を継続することができるようにしたいと考えたからです。昔話が続きますが、その当時は、「停電した時は、パソコン要約筆記者は、手書きで情報保障を続けるべきである」という考えがふつうで、実際、ノートテイク用の紙を持参した入力者もいました。情報保障は、聴覚障害者の基本的な権利であるから、なんとしてでも続けるべきであるという考えから、このような、ちょっと変わった作りになっています。

しかし、この方法の欠点は、表示パソコンの表示と入力パソコンの表示が、「絶対に同じ」である保障はないということです。たとえば、AさんとBさんが、同時にEnterを押して表示に文を流したとすると、Aさんの「表示部」には、Aさんの文が先に表示され、Bさんの「表示部」には、Bさんの文が先に表示されるはずですが。表示用パソコンには、Aさんが先になるか、Bさんが先になるかは、通信が先に届いた方が先になるので、たぶん半々の確立だろうと思います。しかし、パソコンの処理速度やネットワークの速度が人間の動作よりかなり速いので、私の経験では、このようなことは、めったに起こりません。しかし、絶対ではないので、もし入力が入れ違ったりしたら、このような理由からです。

【「表示・入力」 ページの画面の種類と切り替えの方法】

「表示・入力」 ページは、7 種類の画面があります。

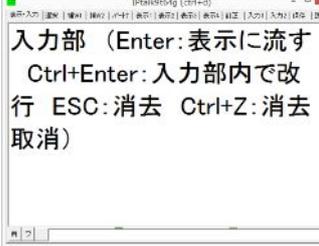
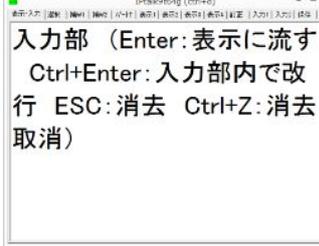
大きく 2 種類に分類されます。下図の上段の「スムーズ画面」と下段の「ワープロ画面」です。

それぞれに、「入力部」「モニター部」のあり、なしで、「2 人入力」「1 人入力」「表示用」の 3 種類があります。

下図の縦の 2 画面が、同じ種類です。

上段右端の「表示用」の「枠なし(スムーズ)画面」は、ちょっと特殊で、「表示用」の「スムーズ画面」の枠が無い画面です。

表示の時に使うので「枠なし画面」と呼んでいます。

「2 人入力」の 「スムーズ画面」	「1 人入力」の 「スムーズ画面」	「表示用」の 「スムーズ画面」	「表示用」の 「枠なし(スムーズ)画面」
 <p>入力部 (Enter: 表示に流す Ctrl+Enter: 入力部内で改 行 ESC: 消去 Ctrl+Z: 消去 取消)</p>	 <p>入力部 (Enter: 表示に流す Ctrl+Enter: 入力部内で改 行 ESC: 消去 Ctrl+Z: 消去 取消)</p>	 <p>入力部 (Enter: 表示に流す Ctrl+Enter: 入力部内で改 行 ESC: 消去 Ctrl+Z: 消去 取消)</p>	 <p>入力部 (Enter: 表示に流す Ctrl+Enter: 入力部内で改 行 ESC: 消去 Ctrl+Z: 消去 取消)</p>
「2 人入力」の 「ワープロ画面」	「1 人入力」の 「ワープロ」	「表示用」の 「ワープロ画面」	
 <p>入力部 (Enter: 表示に流す Ctrl+Enter: 入力部内で改 行 ESC: 消去 Ctrl+Z: 消去 取消)</p>	 <p>入力部 (Enter: 表示に流す Ctrl+Enter: 入力部内で改 行 ESC: 消去 Ctrl+Z: 消去 取消)</p>	 <p>入力部 (Enter: 表示に流す Ctrl+Enter: 入力部内で改 行 ESC: 消去 Ctrl+Z: 消去 取消)</p>	

上の図の上下の移動は、「再」 ボタンと「ワ」 ボタンを押します。

「再」 ボタンを押すと、「スムーズ画面」 から「ワープロ画面」 になります。

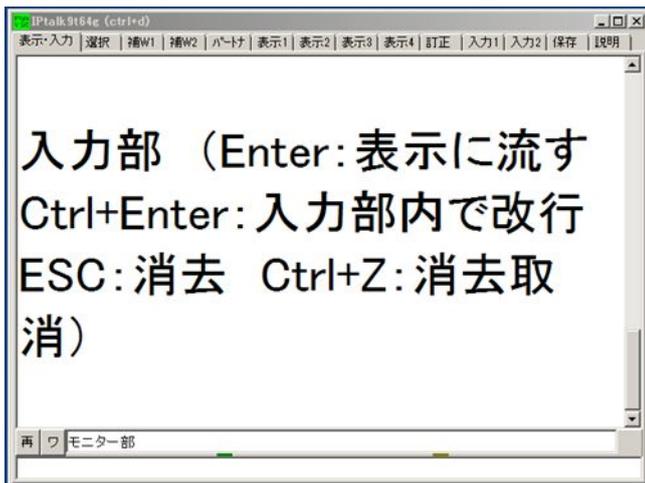
「ワ」 ボタンを押すと、「ワープロ画面」 から「スムーズ画面」 になります。

上の図の横の移動は、「表示 1」 ページの「入力人数は？」の「2 人入力」「1 人入力」「表示用」のラジオボタンで行います。

上段右端の「枠なし画面」は、「表示用」の「スムーズ画面」との間で、F1 キーで行き来します。

下段の「表示用」「ワープロ画面」からは F1 で行けないことに注意してください。

【ワープロ画面】



上の図は、「2人入力」の時のワープロ画面です。

「ワープロ画面」は、「表示・入力」ページの入力部の上、モニター部の左の「ワ」ボタンをクリックした時に「スムーズ画面」と入れ替わりで現れます。「スムーズ画面」との見た目の違いは、右側にスクロールのための「ルーラー」が出ているところです。

ワープロ画面は、スクロールは1行ずつカクカクしますが次の様な利点があります。

- 1) ワープロのようにカーソルを画面の上において、文章の修正・追加・削除ができます。
- 2) スムーズ画面と比較してCPUの負担が少ないので古いパソコンでも表示が遅れません。
- 3) 最新のパソコンでも、多量の文を一気に流した時は、スムーズ画面では、行が表示されるまで時間がかかります。ワープロ画面は、一瞬の内に全部の画面を表示します。(ただ、1画面に表示仕切れない場合は、上の方は、表示されないままになっていってしまうという欠点があります。)
- 4) 「送」ボタンで表示済みの文章の修正ができます。

ワープロ画面では、次のような制約があります。

- 1) ワープロ画面は、行数・行間はフォントの大きさと画面の大きさと自動的に決まってしまう調整できません。桁数は、ウィンドウの幅を変えると自動的に調整されます。
- 2) スムーズ画面と行数が異なります。もし、スムーズ画面とワープロ画面の行数を合わせたい時は、(あまり、その様なニーズは聞いた事はありませんが)スムーズ画面の行数を合わせてください。桁数は、スムーズ画面と合っているはずですが。(スムーズ画面でも、桁数は自動的に決まってしまうため)
- 3) 修正のためにワープロ画面上にカーソルを置いた時、パートナーが入力して文が表示されると、カーソルは自動的に入力部に移動してしまいます。修正する時は、入力を表示に流さない時に行くか、「止」ボタンを押して表示を止める必要があります。

<余談>

IPtalk のユニークなところとして、「ワープロ」画面の存在があります。この画面は、「送」ボタン修正で使っている人が多いと思いますが、最初の IPtalk では、この「ワープロ画面」しかありませんでした。その当時(1999年ごろ)は、パソコン要約筆記は、ワープロソフト(Microsoft Word)に1人入力して、その画面をスキャンコンバータ(ダウンコンバータ)を使って、テレビなどに表示するがふつうでした。ワープロソフトでは、改行すると「カクっ」と行が動くので、パソコン要約筆記の表示といえば、それがふつうでした。それで、最初の IPtalk は、「カクッ」と動く「ワープロ画面」で作りました。

当初、IPtalk を作ったきっかけは、「モニター部」を見ながらの2人連係入力のためであったため、表示については「手書きに比較すればパソコンの文字は読み易い」とあまり気にしていませんでした。

もちろん、すぐ（一週間後くらい後ですが・・・）に「読みやすく」という「要約筆記の3原則」の要求から、「カクッ」と動くのは読み難いという意見が出て、お手本にしていた手書き要約筆記のシートを引きながら書いていく時のOHPの表示を真似るべく、「スムーズ画面」の機能を作ったというわけです。

この時、「スムーズ画面」は、「ワープロ画面」の文章をスムーズにスクロールしながら表示する機能として作りました。

スムーズ画面のフォントの大きさから桁数を計算する手間を省くために、ワープロ画面の桁数をそのまま利用したかったのと、ワープロ画面を受信バッファとして利用したので、そのまま残しましたが、どちらかということその時は、デバッグのために残したという感じでした。

しかし、「送」ボタン修正の機能を追加した時に、修正するための画面として利用したので、入力の際は「ワープロ画面」ですするという積極的な役割が決まりました。つまり、当初は、入力機は「ワープロ画面」表示機は「スムーズ画面」というように考えていました。

その後、F9キーを押すと、直前に追記した文章を消すという機能など、訂正機能も「ワープロ画面」の文字を訂正する事で実現しています。

<余談2>

IPtalkは、ワープロ画面の表示をスムーズ画面でスクロール表示させるのが基本的な考えです。この構造をとっているのが、いろいろな制約にもなっているのですが、プログラムを作るのが楽になる時もあります。

「縦書き表示」は、ワープロ画面の縦横比を逆転させることで行数と桁数を整えています。この方法を取ることで、Undoや■の表示などの機能を横書きから変更する必要がないので、比較的、楽に実現できました。

この構造の一番の欠点は、文の一部の色を変えるというのを実現しようとした時に「今日は、\$Red\$よい天気\$End\$です。」などというように、行中に制御文字を入れづらいという点です。ワープロ画面の桁数をそのまま利用することができなくなってしまうのです。

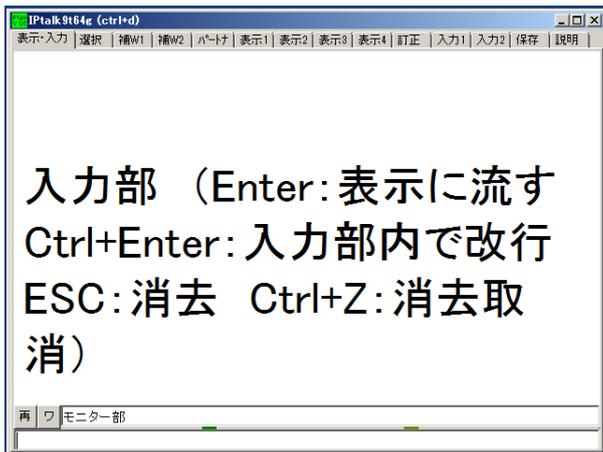
スムーズ画面に表示する時に桁数を計算するだけなのですが、この方法が「エレガントだ！」と気に入っていて、ずっと変えずに耐えていたのですが、とうとう、あきらめて「表示1」ページの「ルビ・色表示時の桁数指定」枠の「桁数自動計算(枠なし画面で計算)」を作りました。

<ヒント>

IPtalkは、ワープロ画面の表示をスムーズ画面でスクロール表示させるのが基本的な考えです。

スムーズ画面の表示がおかしかった時、ワープロ画面の表示は正常だとすれば、IPtalkの表示プログラムに問題がある可能性が高いし、ワープロ画面の表示もおかしかったら通信の方に問題があると推定することができます。

【スムーズ画面】



上の図は、「2人入力」の時のスムーズ画面です。

「表示・入力」ページの上部、入力した文がゆっくりスクロールしながら表示するのが「スムーズ画面」です。IPTalkを起動すると、この画面が出ます。

自分が入力した文や他の人が入力した文を受信した時にここに表示します。読みやすい様に、ゆっくり上にスクロールするようになっています。

スムーズ画面は、カーソルを持って行って、表示されている文を修正する事ができません。もっぱら表示するだけです。

スムーズ画面の文字は、フォントではなくて、グラフィックで描画しています。そのため、縦書きのように回転させた文字を表示したり、ルビを振るとか、絵と合成するなどができます。縁取り表示は、縁取りの色で上下左右など8方向にずらして描画した後に、真ん中に文字色で描画する方法で実現しています。つまり、通常の9倍の描画を行っているわけです。このため、ワープロ画面に比べるとCPU負荷が非常に高くなります。

文字をスムーズに動かす方法は、文字を描画⇒消す⇒ちょっと上に描画ということをし、すばやく繰り返しています。どの程度、上に描画するかは「表示2」ページの「表示部スクロール速度」枠の「スクロール移動量」のドット数で指定します。描画の頻度は、「スクロール間隔」のミリ秒で指定します。

テレビなどは、1秒に30回、画像を書き換えています。スクロール間隔のデフォルトが30ミリ秒になっているのは、このためです。ただ、パソコンの描画が間に合わないと30ミリ秒を指定しても、実際は、15回とか10回くらいしか書き換えません。

また、スクロール移動量は、1ドット(ピクセル)ずつ動くようにすれば、理屈としては、連続して動くはずですが、しかし、画面の書き換え速度が、限られているので、1ドットでは動きがとてもゆっくりになってしまつて、表示が入力についていきません。

スクロールがウネウネする場合があります。この様な時は、「表示2」ページの「背景のビットマップ」の「背景表示」のチェックを入れると改善される場合があります。このチェックは、各行を「消す」→「書く」ということを順番に行うのを、全ての行の書き換えを裏画面で行ってから表の画面に一気に転送するという方法に切り替えます。

<表示の行数・桁数について>

起動して何も指定しなければ、漢字のみを表示すると6行×12桁、「ひらがなのみ」の表示では、6行×14桁です。このように桁数が変わるのは、「プロポーションナル・フォント」を使っているためです。この種類のフォントは、読みやすくするために、文字によって表示する幅を変えています。幅の小さい句点など(「。」「、「」「っ」「よ」など)を表示すると桁数はさらに多くなります。

「プロポーショナル・フォント」は、フォント名に「MS Pゴシック」というように、「P」の文字が入っています。

「MSゴシック」というように「P」の入っていないフォントを「固定ピッチ・フォント」といいます。これは、句読点などでも同じ幅で表示します。字幕に、この「固定ピッチ・フォント」を使うことはほとんどありません。

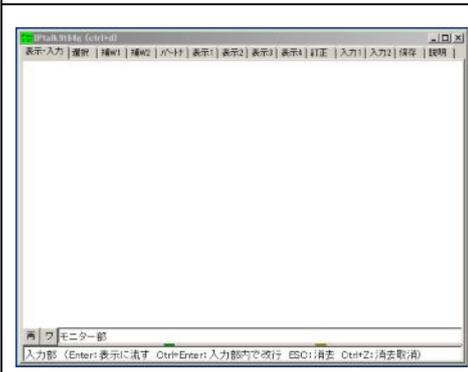
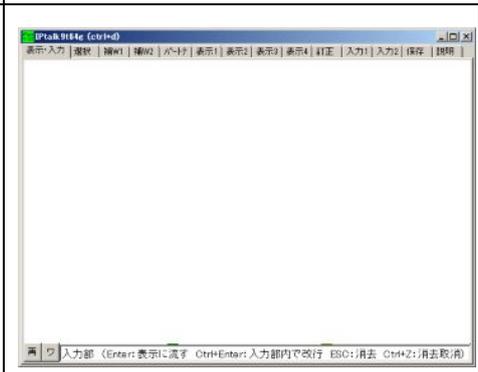
I P t a l k では、表示の桁数を言う時は、習慣的に「ひらがなのみの表示桁数」を言います。これは、「プロポーショナル・フォント」を使った場合、かなと漢字、句読点などが混じった文の桁数が、平均すると「ひらがなのみ」の桁数に近くなるからです。このような訳で、I P t a l k の標準は、6行×14桁と言っています。

<余談>

スムーズ画面は、ワープロ画面が更新されると表示を書き換えます。新しい行が発生した時は、スクロールする様に作られています。

「再」ボタンを押すと、ワープロ画面の更新に関係なく、表示を書き換えます。

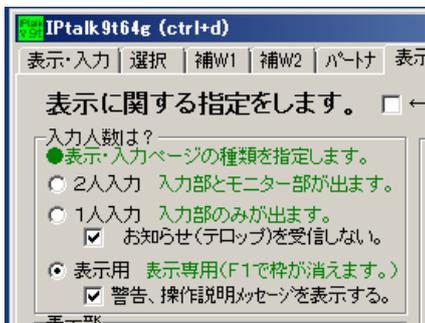
【2人入力用画面、1人入力用画面、表示用画面】

2人入力用画面	1人入力用画面	表示用画面
		

表示入力ページのワープロ画面、スムーズ画面の「入力部」「モニター部」は、「表示1」ページの「入力人数は?」枠で表示したり、消したりできます。

初期値は、「2人入力用画面」で、「入力部」と「モニター部」が表示されています。この画面は、2人連係入力をする時に使います。

「表示1」ページの「入力人数は?」枠の「1人入力」のラジオボタンを入れると「モニター部」が消えて、「入力部」のみになります。この画面は、ノートテイクなど、1人で入力するために作りました。また、8人モニターを使う時は、「モニター部」が必要ないだろうと思ったのですが、8人モニターを置く場所として「モニター部」のスペースを使う人が多く、「2人入力用画面」で「モニター部」の行数を増やしてスペースを確保するという使い方をするので、「1人入力画面」はあまり使われていません。



「表示用」のラジオボタンを入れると「モニター部」「入力部」「再」ボタンなどが全部消えて、「表示部」のみとなります。この画面は、普通は F1 キーを押して「枠なし画面」に切り替えて使います。

<注意>

「表示用画面」には、「ワープロ画面」の「表示用画面」と「スムーズ画面」の「表示用画面」があります。F1 キーで「枠なし画面」に切り替えることができるのは、「スムーズ画面」の「表示用画面」の時だけです。「ワープロ画面」の「表示用画面」は、右側にルーラーが出ているのでわかります。



<注意>

「表示用画面」は、「2人入力用画面」などと同じなので、「枠なし画面」のように「背景画」を表示することはできないことに注意してください。

【枠無し画面】

入力部 (Enter: 表示に流す
Ctrl+Enter: 入力部内で改行
ESC: 消去 Ctrl+Z: 消去取
消)

「枠なし画面」は、「スムーズ画面」の「表示用画面」で F1 キーを押した時に現れます。「枠なし画面」で F1 キーを押すと「表示用画面」に戻ります。

<注意>

「ワープロ画面」で F1 キーを押しても「枠なし画面」になりません。

「枠なし画面」は、タグやウィンドの枠がありません。

ウィンドに枠が無いので、マウスでつまんで動かす事ができません。「表示用画面」でマウスで移動した後に F1 キーを押して枠無しにしてください。

「枠なし画面」を直接動かす方法としては、「設定送信」ウィンドの「位置・行数・保存」ページの「ウィンドの位置と大きさ」枠の「位置」枠で遠隔操作できます。

「再」ボタンが消えているので F2 キーが、「再」ボタンの代わり、F3 キーは、行数を枠無し画面いっぱい調整します。

F3 キーを押さないと枠無し画面いっばいに行数を調整しない理由は、「送」ボタン修正をする場合、枠ありのワープロ画面で修正するので、表示用と修正用で行数がずれてしまうからです。「送」ボタン修正を使わない時は、F3 キーを押して、行数を調整してください。

F3 キーは、「表示1」ページの「行数・行間を自動調整する」のチェックが入っていないとメッセージを表示して調整しません。

F2 キー、F3 キーは、「表示用画面」でも動作します。

「枠なし画面」「表示用画面」は表示用なので、マウスカーソルが枠なし画面の上にくると消えます。

マウスカーソルを表示したい時は、マウスの shift + 右クリックすると現れます。「表示2」ページの「マウスカーソルの非表示」のチェックを入れていた場合は、チェックは自動的に外れます

この操作は、一方通行で、またカーソルが消えるようにしたい場合は、IPtalk を再起動するか、「クリックすると消える」のチェックを入れます。

「表示2」ページの「マウスカーソルの非表示」の「クリックすると消える」のチェックを入れると、左クリックするたびに「指」「非表示」「表示」の順で、マウスカーソルが変わります。

「枠なし画面」は、背景に画像を表示することができます。表示する画像は、「表示2」ページの「背景のビットマップ」枠で読み込みます。指定できる画像は、ビットマップと Jpeg です。

2つの画像を読み込んでいる時は、右クリックで背景に表示する画像を切り替えることができます。

これらの機能を使うと「吹き出し字幕」ができます。

「枠なし画面」がデスクトップより小さい場合、「表示2」ページの「背景のビットマップ」の「左クリックで移動」のチェックを入れマウス左クリックしてドラッグすると「枠なし画面」のウィンドを移動できます。

これは、パワーポイントの上に「枠なし画面」を表示して、吹き出しのような字幕を表示する「吹き出し字幕」のために作りました。

【入力部】

「表示・入力」ページの一番下の枠が「入力部」です。起動した直後は、自動的にカーソルが入力部に位置しています。

「入力部」の行数は、「表示 1」ページの「モニター部&入力部」枠の「入力部の行数」で増やすことができます。フォントや背景色なども、同じ「モニター部&入力部」枠で指定できます。

IPtalk で、一番使う機会の多いのが、この「入力部」です。

キーボードから入力して Enter キーを押し、入力文を表示部に流すのが基本的な使い方ですが、入力部には、入力補助機能など、いろいろな機能があります。

Enter キー	入力を表示に流します。 「入力1」ページの「入力文の送り方」枠の「カーソルより前の文を送る」チェックが入っていると、キャレット(カーソル)より前の文のみが表示に流れます。
Ctrl+Enter キー	入力部内で改行
Ctrl+J	入力部内で改行 (あまり使わないとは思いますが・・・)
Esc キー	ESC で入力部クリアする
Shift+Esc キー	Esc で消した文字を元に戻す。 Ctrl+z でも、戻すことができますが、行の全体が選択されているため、そのまま入力すると戻した文が消えてしまいます。Shift+Esc では、キャレット(カーソル) が文末にきているので、そのまま入力できます。
Ctrl+z キー	Esc で消した文字を元に戻す。 範囲選択されているので、追加修正する時は、→キーで選択を解除してください。そのままでは、Enter で流れます。
↑キー	「入力 1」ページに「入力部の↑↓キーの動作」枠の「↑で行頭、↓行末に移動」チェックを入れた場合は、最上行では、UP キーで入力部の先頭に行く
↓キー	「入力 1」ページに「入力部の↑↓キーの動作」枠の「↑で行頭、↓行末に移動」チェックを入れた場合は最下行の down キーで入力部の行末に行く
F1	① 通常の F キーメモ ② 「入力 2」ページの「F1 キーで漢字変換の入力読みを挿入」枠のチェックを入れると「読み」を挿入する。
F2	通常の F キーメモ
F3	通常の F キーメモ
F4	通常の F キーメモ
F5	通常の F キーメモ
F6	通常の F キーメモ
F7	① 通常の F キーメモ ② 訂正キーカッコくりり処理 「訂正」ページの「F7 キー」枠のチェックを入れると、訂正文のテンプレートを割り当てる事ができます。
F8 Shift+F8	① 通常の F キーメモ ② 「♪春のうららの～♪」の様に、入力した文を指定した「♪」などの文字でくくる機能 「入力 1」ページの「F8 キー」枠のチェックを入れると指定した文字でカッコくりり

	<p>処理をする。</p> <p>くくる文字列は、Shift ありとなしで 2 種類を指定できる。</p> <p>行頭が、「入力 1」ページの「Enter で色指定と発言者名を入れる」枠の「発言者名」と同じ時は、「発言者名」の後に前カッコを入れる。発言者名と違う時は、行頭に前カッコを入れる</p>
F9	<p>Undo 処理。表示に流した文字を 5 回前まで入力部に戻す。</p> <p>「訂正」ページの「F9 キー修正」枠のチェックで動作が変化する。</p>
F10	F10 は、 atok で入力モードの変更のため MSIME では、ウィンドメニュー開く
F11	<p>① 通常の F キーメモ</p> <p>② 「訂正」ページの「F11 キー」枠のチェックを入れると del キーとなる。</p> <p>1 文字ずつ表示部を消去する。</p>
Shift+F11	<p>「訂正」ページの「F11 キー」枠のチェックを入れると cls キーとなる。</p> <p>表示部の全部を消去する。次の入力、表示部の最上部より表示される。</p>
F12	<p>前に空行を入れる Enter キー</p> <p>「表示 1」ページの「改行の表示方法」枠の「空行のみ改行」チェックが入っている時に、前の入力に連結せずに表示する。</p> <p>「補 W1」ページの「F キーで発言者名を入力する」枠の「F12 で後ろにも空行を入れる」チェックを入れると、後ろにも空行を入れる。</p> <p>これは、「空行のみ改行」表示の時に、前後の文に独立した文を専門で入力して表示したい時に使用する。訂正文を入力する係りなど。</p> <p>「空行のみ改行」表示の時に、文をうまく改行する方法としては、「入力 2」ページの「[。]」「[?]」で空行を流す」枠の「[。]」で自動改行」チェックを、その後、作った。</p>

以下の場合、**Enter** しても表示部に入力文が流れません。

- ① 「訂正」ページの「確認修正」パレット枠の「入力をパレットに送信する」チェックが入っている。
- ② 「入力 1」ページの「8 人モニターで連絡する」枠のチェックを入れると、文頭が特定の文字列の場合に、**Enter** しても表示に流さないようにできます。
- ③ 「入力 1」ページの「チーム支援」枠のチェックを入れると、文頭が特定の文字列の場合に、チェックを入れている人の「モニター部」の上に、もう一つのモニター部のような枠を出して入力文を表示します。この時、**Enter** しても表示には流しません。

「表示 3」ページの「表示をクリップボードへ」枠のチェックを入れると、入力文や受信文など、表示に流れた文をクリップボードにコピーし、読み上げソフトに渡して読み上げることができます。

音声認識ソフトで入力した文を入力部に流し込んで、表示に流すことはできます。ところが、2014年版のドラゴンスピーチでは、確定した時のキャレット(カーソル)位置が真ん中に行くなど不具合が出ています。この対策として、「サブ入力ウィンド」の下段を音声認識入力に対応する入力枠とし、「確定で自動表示(ドラゴンスピーチ)」チェックを作ったので、そちらで試してください。

「入力部」にキャレット(カーソル)が来ると、自動的にIMEのモードを「ひらがなモード」に変更します。IPtalk9gの頃には、自動的に「ひらがなモード」にするか、そのままのモードを維持するかのチェックがあったのですが、

使っているという話を聞かなかったので9iでは、この機能は削除してしまいました。もし、英文でパソコン文字通訳をしている人がいて不便であれば連絡してください。

Windows8で、Atokのローマ字入力を使っている人は、IMEの切り替えについて以下の不具合があるので注意してください。

<不具合状況>

1)入力部で「ローマ字入力」モードで入力していて、他のページ、例えば「表示1」ページを開けて、また入力部に戻ってくると「かな入力」モードになってしまいます。

2)Wordで「ローマ字入力」モードで入力していて、IPtalkの例えば「パートナー」ページに行き、またWordに戻るとIMEがoffになってしまいます。

そこで、IMEをONにすると、「半角英数」モードになります。さらに、ひながなモードにすると「かな入力」モードになります。

<対策方法>

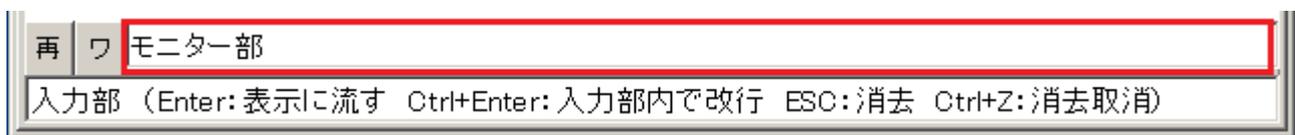
① この不具合は、コントロールパネルで以下の設定にすると回避できます。(推奨)

コントロールパネル→言語→詳細設定→「入力切り替えのアプリウィンドウごとに異なる入力方式を設定する」にチェックを入れる。

② 「入力1」ページの「windows8+Atok時」のチェックを入れる。

ワープロ画面やWordなどから入力部に文をcopy&pasteして入力することができます。この時に、フォントの大きさが変わってしまいますが、Enterキーを押して文を表示するか、ESCキーを押し消去すると、フォントの大きさは元に戻ります。

【モニター部】



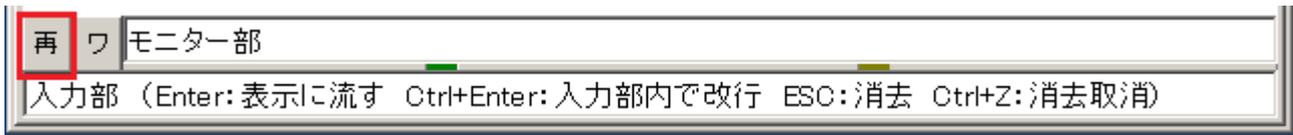
画面の下、入力部の上に、パートナーの入力状況が表示される「モニター部」があります。

モニター部は、パートナーと2人入力する時、パートナーの入力状態を見る事ができます。より積極的にモニター部を使って合図を送り、2人入力の連係に利用する場合があります。

- ・フォントや背景色や行数を変更する事ができます。(「表示1」ページの「モニター部&入力部」枠)
- ・入力部での改行を「■」で表示して、連続した行として表示することができます。(「表示1」ページの「モニター部&入力部」枠の「開業を■で表示する」)
- ・枠に表示仕切れないくらいに入力した場合に、モニター部に文頭を表示するか、文末を表示するかを選択ができます。最初は、文頭を表示するようになっています。(「表示2」ページの「モニター表示方法」枠の「8人モニター」チェック)
- ・モニター部では、パートナーが入力を全部消した時に、特定のマークを出す機能があります。(「入力1」ページの「入力途中クリアー時メッセージ」枠)

それぞれの使い方の詳細は、指定するページのマニュアルを参照してください。

【「再」ボタン】



画面の下、モニター部の左端に「再」ボタンがあります。

このボタンを押すと、「スムーズ画面」を再描画します。

「ワープロ画面」の場合は、「スムーズ画面」に切り替えて再描画します。

「再描画」は、行数を再計算し、最新行を画面の下段になるように文字を描画してスクロールは停止します。

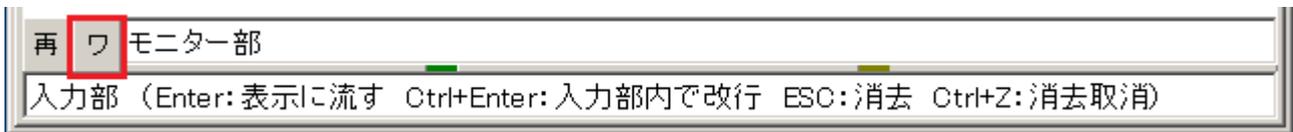
<余談>

「再」ボタンは、画面描画が安定していなかった初期の頃に表示が乱れて再描画しなくてはならなかった頃につけた名前です。今の妥当な名前は「スムーズ画面」という意味の「ス」ボタンと思いますが、変更せずそのままになっています。

描画の不具合は無くなっていますが、もし行数・桁数が調整されないとか、表示に問題がある時は、とりあえずこのボタンを押してください。

行数や桁数の表示に問題がある時に、「再」ボタン以外に試してみる価値のある方法は、「マウスでウィンドの大きさを少し変えてみる」という方法です。こうすると、行数の計算処理以外に、桁数の計算などの処理が動いて、問題が解決される場合があります。

【「ワ」ボタン】

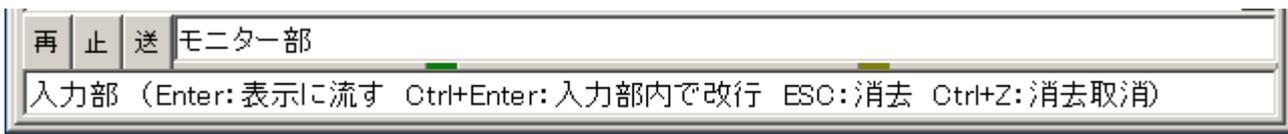


画面の下、モニター部の左、「再」ボタンの右に「ワ」ボタンがあります。

このボタンを押すと、「スムーズ」画面が「ワープロ」画面に切り替わります。

「訂正」ページの「送」ボタン修正 枠の「送」ボタン修正を使う」チェックが入っている場合は、「ワ」ボタンが「止」ボタンに変わり、「送」ボタンが現れます。

【「止」「動」「送」ボタン】



ワープロ画面で表示を止めて修正できます。「送」ボタン修正と呼んでいます。

「訂正」ページの「送」ボタン修正 枠の「送」ボタン修正を使う」チェックを入れて、「ワ」ボタンを押すと「ワ」ボタンが「止」に表示が変わります。

この状態は、普通のワープロ画面と同じ動作をします。

「止」ボタンを押すと、「動」に表示が変わり、カーソルはワープロ画面に移動し、入力部は赤表示になり、「修正モード」に入ります。



「修正モード」では、他の人が入力や Undo してもワープロ画面は動かず止まったままですが、裏で受信した文を記憶しています。

tab キーで、「表示部」「送」「動」「再」の間を移動するので、カーソルをすばやく「表示部」に移動して、修正できます。

修正モードのワープロ画面で修正した後、「送」ボタンを押すと、止まっている間に受信した文を自分の表示部に追加表示した後、自分の表示部、1画面分送信し、通常の表示に戻ります。

<「修正モード」は以下の操作で抜けます>

- 1) 「動」ボタンを押すと、止まっている間に受信した分を追加表示し、「通常モード」のワープロ画面になります。送信しません。
- 2) 「再」ボタンを押すと、止まっている間に受信した分を追加表示してスムーズ画面に切り替えます。送信しません。
- 3) 修正モードの時、入力部で入力し **Enter** を押すと、受信した文を追加表示した後、入力した文を自分に表示、入力部に送信し、「通常モード」のワープロ画面に戻ります。「訂正：↑の「」は「」です。」の訂正文を流す F7 キーを使った場合も同様の動きをします。

<「ワ停止モニター」ウィンド>

「止」ボタンを押し、修正モードに入った時、裏で受信している文を「確認修正パレット」の「ワ停止モニター」ウィンドでモニターする事ができます。「訂正」ページの「送」ボタン修正 枠の「ワ停止時モニター表示」ボタンを押します。

<注意>

- 1) 修正モードに入っている間に、1画面以上の入力を他の人がしてしまうと、「送」ボタンを押しても、修正した文は表示されませんので、「ワ停止時モニター」で入力を見ながら急いで修正する必要があります。
- 2) 修正モードに入っている間の **Undo** は、修正モードから抜けた時に実行されます。**Undo** が修正している行までさかのぼって来ると、表示が **Undo** した人と異なってしまいます。

<「確認修正パレット」ウィンドと「送」ボタン修正との併用>

「確認修正パレット」の機能と「送」ボタン修正「ワ停止モニター」は同時に動作しますが、入力者が「訂正」ページの「確認修正パレット」枠の「入力をパレットに送信する」チェックを入れている場合は、「確認修正パレット」ウィンドに受信するため、「止」ボタンを押しても裏で受信しないため「ワ停止モニター」には表示されません。つまり、「確認修正パレット」が優先されます。

<「送」ボタンを使って修正の手順>

1)「ワ」ボタンを押して、ワープロ画面にします。「ワ」ボタンが「止」に表示が変わり、右に「送」ボタンが現れます。

2) 修正する時に、「止」ボタンを押します。表示が「動」になり、カーソルはワープロ画面に移動し、入力部は赤表示になり、「修正モード」に入ります。「修正モード」では、他の人が入力や Undo してもワープロ画面は動かず止まったままですが、裏で受信した文を記憶しています。

3) 文を修正します。

この時、「ワ停止モニター」ウィンドで、他の人の入力に注意します。

4)「送」ボタンを押すと、止まっている間に受信した文を追加表示した後、修正したワープロ画面の文を 1 画面文を同じ入力班のメンバー全員に送信します。

<「送」ボタン修正を受信した時の表示>

1)他のメンバーがスムーズ画面にしている時は、送られてきた文を 1 画面まるごと入れ替えるため、修正した部分だけが書き換えられた様に見えます。他のメンバーがワープロ画面にしている時は、1 画面文の行数が一気にスクロールして表示されます。

2)「送」ボタン修正を受信した時に、送信した修正機の行数が表示より少ない場合、表示の上に古い行が残って表示されてしまいます。この対策として、一度表示をクリアして、受信した修正文を下詰めで表示します。このため、スクロール途中でも、最新行を一気に表示することになります。

受信した修正文の行が不足する場合は、表示の上の行が空行になり突然消えたように見えますが、下の行の表示位置が動くことはありません。

受信した修正文の行が過剰な時は、下詰めで表示するので、上の余分な行は表示されません。

<注意>

1) このボタンを使って修正する場合は、表示機の桁数と「送」ボタンを使う人の桁数を合わせてください。もし、桁数が合っていないと、不自然なところで改行された形で表示されます。

「訂正」ページの「送」ボタン修正枠の「行数・桁数を合わせる」ボタンを押すと、自分の表示をパートナー(表示機)に合わせることができます。

2) また、この「送」ボタンを押すと、ワープロ画面に修正前の文と修正後の文の両方が記録として残ります。

3)「送」ボタンを押すと、Undo が一度初期化されます。

【入力部、「再」ボタン、「ワ」ボタン、「送」ボタン、「止」ボタン間の移動】

「再」ボタンなどはマウスを使わずに押すことができます。

tabキーで、「入力部」「再」「ワ」などの間を移動し、Shift+tabキーで逆に移動します。ボタンは、enterキーやスペースキーで押す事ができます

スムーズ画面の時は、tabキーで、「入力部」「ワ」「再」の順にフォーカスが移動します。

ワープロ画面の時は、tabキーで、「入力部」「ワ」「再」「表示部」の順にフォーカスが移動します。

「訂正」ページの「送」ボタン修正」枠の「送」ボタン修正を使う」チェックを入れて、「送」ボタンを出した場合は、tabキーで、「入力部」「送」「止」「再」「表示部」の順にフォーカスが移動します。

【入力部桁スライドマーカー】



入力部とモニター部の間の2つのスライド・マーカーは、マウスで左右に移動させる事ができます。

これは、まだ連係入力の方法を試行錯誤していた頃、表示の「単語の泣き別れ」を防止するため、表示桁数を考慮した入力をするということで付けました。しかし、1つの文を連続して入力しているので、入力部の桁数では「単語の泣き別れ」を防止することはできませんでした。

その後、2人入力の時に、1人で入力する文字数の目安を決め、その桁数にセットするという使い方をしたりしていますが、あまり使われていないのではないかと思います。

入力文字数をあまり長くしないという機能は、「入力2」ページの「入力部の文字数で流す」枠の「赤表示する」チェックを入れれば、文字数が超過すると入力部が赤くなり警告します。

おわり